

# 大規模災害後における建築物等の二次災害防止のために

－判定士訓練の実施による判定体制の強化－

## 大災害後の二次災害を防ぐ危険度判定とは

危険度判定とは、大地震や豪雨による建築物や宅地の被災状況を迅速かつ的確に調査し、二次災害発生の危険の程度を判定、現地に表示することで二次災害を防ぐ活動です。茨城県では建築物と宅地についての判定体制を整備しています。

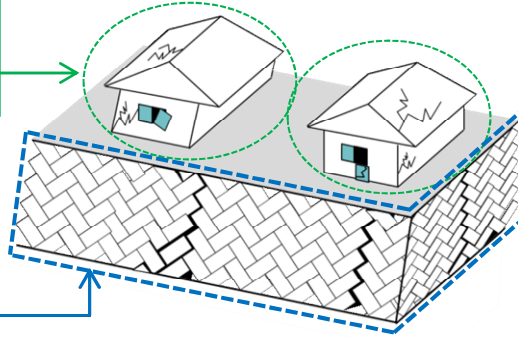
### 被災建築物応急危険度判定

地震直後の建築物を対象に、余震等による倒壊の危険性や、外壁・窓ガラスの落下、付属設備の転倒等の危険性を調査

### 被災宅地危険度判定

地震や大雨等の災害により、宅地が大規模かつ広範囲に被災した場合に、擁壁や、地盤の変状等の危険性を調査

建築物や宅地を 調査・判定



危険度判定結果を現地に表示！



被災建築物応急危険度判定ステッカー



被災宅地危険度判定ステッカー

## 危険度判定体制の強化を進めています！

### 建築物判定に関する取り組み

#### ◆判定士の養成状況

- ・民間建築士・行政職員を対象として、建築物判定士養成講習会を毎年開催 ⇒ 現在 **2,155名を確保!** (R3.2月時点)
- ・今年度は、受講者に判定活動の実態を理解してもらうため、初の試みとして、判定経験のある県職員の体験談を紹介

#### ◆模擬訓練の実施

- ・地震被害を受けた建築物モデルを作成し、判定作業を実際に体験することで、判定の技術を向上
- ・今年度は、**70名の判定士が参加**し、例年の訓練に加え、災害時に調査が困難な屋根の被災状況把握について、**ドローンを活用した調査のデモンストレーションも実施**

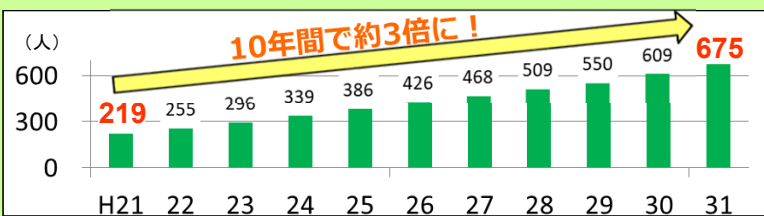


模擬訓練の様子

**R2 県内初実施!**

#### ◆被災建築物応急危険度判定コーディネーターの養成

- ・被災時に、判定士を受け入れる市町村において、担当地区の割り当てや結果集計など現地判定の支援を行う「応急危険度判定コーディネーター」の養成講習会及び訓練を実施 ⇒ 現在 **675名を確保!** (R3.2月時点)
- ・今年度は例年の訓練と異なり、コロナ禍に対応するため **訓練用動画を作成、配信して判定体制の強化を図りました。**

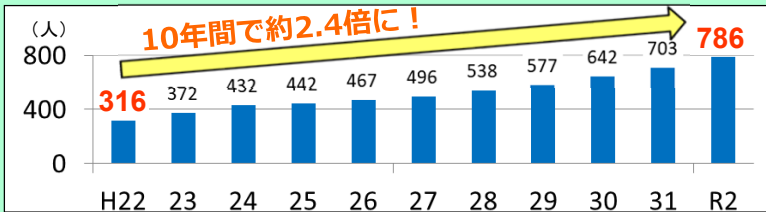


応急危険度判定コーディネーター数の推移

### 宅地判定に関する取り組み

#### ◆判定士の養成状況

- ・宅地開発等の一定の実務経験を有する民間又は行政職員を対象として、宅地判定士養成講習会を毎年開催 ⇒ 現在 **786名を確保!** (R3.2月時点)



宅地判定士数の推移

**R2 県内初開催!**

#### ◆模擬訓練の実施

- ・被災した擁壁や法面などの模型を用いて判定作業を実際に体験することで、判定の技術を向上
- ・今年度は **県内初** の開催となり、実技経験のない **59名の判定士が参加**



模擬訓練の様子

#### ◆宅地判定調整員の養成

- ・危険度判定実施本部と判定士との連絡調整や判定結果とりまとめなどを行う「宅地判定調整員」の養成講習会及び訓練を実施 ⇒ 県内で **47名を初めて認定!** (R3.2月時点)
- ・今年度は **県内初** の開催となり、他県の事例を学ぶとともに、机上訓練等を行いました。



研修会の様子